



甲佐町議会だより

清流



町の元気は、人の元気から。
産業の後継者を紹介します。
船津の井上崇是さんは、平成5年に就農、
平成6年に結婚。

総理大臣に意見書を提出

盛況のグリーン・パルをもっとPR

三本松甲佐線の全線改良を急げ

教師は子どもの喜怒哀楽を察知すべき

一般質問
4人

6P
4P
3P

第98号
平成13年10月25日

9月議会で こんなことが決まりました

9月議会は、9月14日に召集され、召集当日と17日、18日の3日間、実質審議が行われました。

一般質問は17日に行われ、4人が町政について質問しました。その内容は後のページに紹介していますのでご覧下さい。

今期町長が提出した議案は15件。内訳は、昨年度決算の認定案件が7件。補正予算案件が3件。条例の廃止・改正が2件。その他が3件で、これらは、審議の結果、全部の議案が可決となりました。

また、最終日の18日には、議員から意見書の決議案が提案され、全ての提案が議決されました。

ここでは、決算の審査を特別委員会に任せることになったことと、議会が議決した意見書についてお知らせします。

決算は継続審査へ

昨年の1年間に町のお金をどのように使ったか。議会が認めた予算の目的や方法どおりに使ったか。

町長はこうした審査を受けるために、12年度の一般会計と特別会計等決算を議会に提出しました。

聞きなれた言葉で表現するならば、会計報告と事業報告を行い、その承認を求めるものと言えるでしょう。これを受けた議会は、予

12月まで 特別委員会の審査

会計毎の決算額

(単位：百万円)

会計の種類	歳入	歳出	残額	
一般会計	5,431	5,229	201	
特別会計	国保会計	1,486	1,301	184
	老保会計	2,203	2,168	35
	介護保険会計	823	765	58
	有線放送会計	56	48	8
	住宅新築資金等貸付会計	3	3	1

端数整理の都合上で、端数が合わない場合があります。

水道事業の営業収益

(単位：百万円)

営業収益	営業費用	営業利益
142	92	50

特別委員会の構成員

- 委員長 奥名克美
- 副・委員長 中村幸男
- 委員 山内 勲
- 委員 高木英吉
- 委員 佐藤良一
- 委員 佐藤義郎

なお、これを受けた同委員会は、10月9日に初会合を開き、独自に12月議会までの間に審査することを決定しています。

算の使い方に工夫が必要ではなかったか。或いは、せっかく予算を投入したのに、その規模が適切でなかったために狙いどおりの成果が出なかったのではないかなどを審査することになります。決算の審査は、使った予算を振り返り、今後の予算のあり方を考える絶好の機会でもあるのです。こうした審査を行うために議会は、特別委員会を設置し、次の6人の委員を選出しました。

甲佐町議会からの意見書

交付税の安定確保を望む

内閣総理大臣様

(ほか)

県内の順位	市町村名	交付額
1	阿蘇町	90
2	荒尾市	69
3	西原村	67
6	益城町	48
11	御船町	30
12	宇土市	26
15	小川町	24
17	甲佐町	22
19	城南町	21
20	矢部町	20
合計(39の市町村)		1,018

データ

ゴルフ場利用税の市町村への交付額(12年度)
(主なところを選んだもの)

単位: 百万円

ゴルフ場利用税の存続を望む

ゴルフ場利用税の存続・堅持を求める意見書

ゴルフ場利用税は、ゴルフ愛好家が納めた税の7割をゴルフ場所在市町村に交付されるものであり、市町村にとっては貴重な財源となっている。

現在国内に、ゴルフ場利用税の廃止の動きがあるが、仮に廃止された場合、窮迫した地方財政は更に悪化することは明白である。

また、市町村は、ゴルフ場のために道路の整備、防災対策、環境対策等に取り組んでいるばかりでなく、将来的にもゴルフ場利用税が存続することを前提として地域づくりを進めているところである。

したがって、国においては、現下の地方財政の危機的な状況をよく理解し、ゴルフ場利用税を廃止するのではなく、存続を図られるよう強く要望する。

甲佐町議会議長

平成13年9月18日可決

地方交付税総額の安定的確保と、道路づくりの財源確保に関する意見書

自主財源の乏しい町村にあっては、景気の低迷による税収の停滞等による財源の確保は厳しく、個性豊かで活力に満ちた地域づくりの実現は、困難を伴っている。

こうした状況の中で、基幹的な財源である地方交付税を見直しする論議や、道路づくりの財源をほかの目的を含めて幅広く使うことの論議がなされているが、これは、絶対見逃せないものである。

国におかれてはこうした市町村の状況を十分認識し、地方分権のいっそうの進展を図るため、次の事項に強い配慮を要望すること。減額は絶対行わないこと。

一、道路整備をより円滑に推進するため、道路特定財源を堅く存続すること。

甲佐町議会議長

平成13年9月18日可決

解説

地域の公益に関わる事件について国や内閣等に意見書を提出することは、住民代表としての議会の権限の一つである。今回、こうした権限を行使して本町の窮状を訴え、その主張を意見書として内閣総理大臣や財務大臣などに提出することとなったもの。

データ

町の税収と交付税額の推移
〈町税とは、町民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税の合計額〉

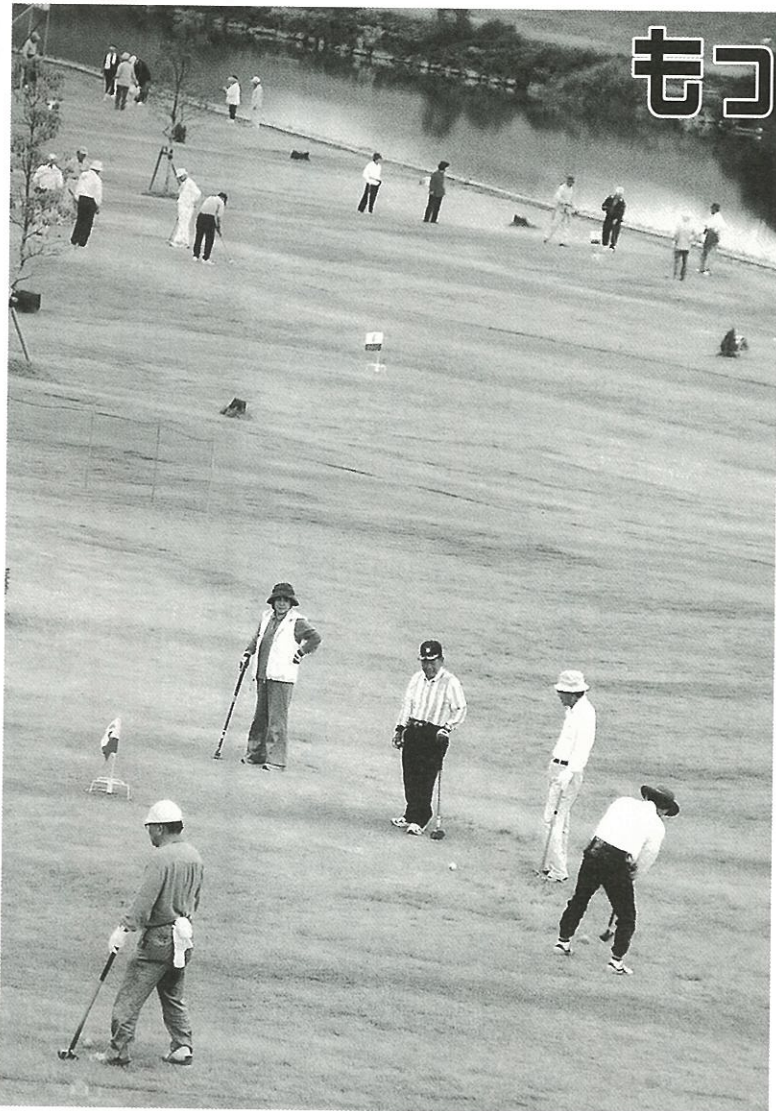
年度	町の税収A	国からの交付税B	A対B
3	652	1,890	1対2.9
4	714	1,958	1対2.7
5	748	2,048	1対2.7
6	725	1,980	1対2.7
7	782	2,038	1対2.6
8	795	2,081	1対2.6
9	820	2,134	1対2.6
10	777	2,178	1対2.8
11	797	2,234	1対2.8
12	786	2,264	1対2.9

単位: 百万円

9月議会の補正予算。この審議の中で、
聞いたかったことを聞きました。

これだけは
聞いておきたい

Q & A



もっとP・Rをしよう

グリーン・パル

Q1

安津橋健康広場（グリーン・パル）がオープンしたが、利用者数は盛況のようだ。計画当初の目標数値と比べてどうなのか？
本施設の目的は、健康づくりと融和にあると思う。現在の入場料が300円になっているが割引措置はないのか聞きたい。

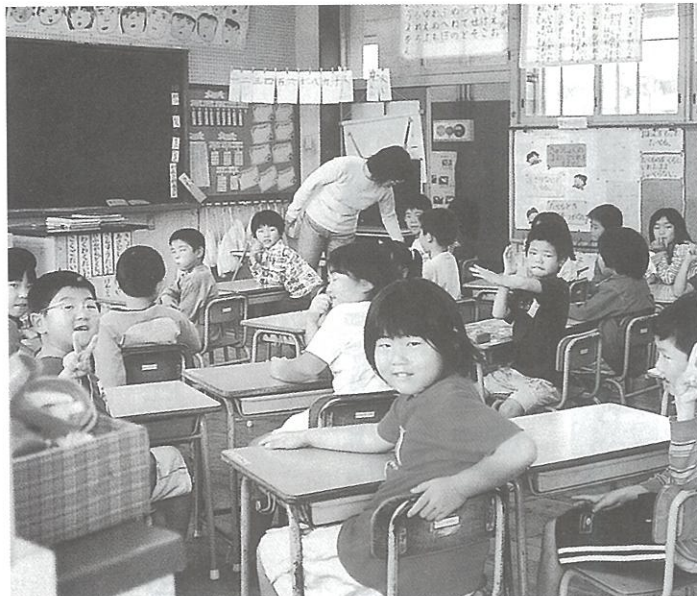
A1

当初予算を組んだ時点では1日平均35人を見込んでいたが、オープンして11日間で469人の利用者が

また利用者数を増やすためにはPRも必要と考える。広報こうさを使った宣伝活動も必要と思うが町の考え方を聞きたい。

あった。また通常は、プレー費は1回300円だが回数券（50回で1万円）を作り、利用促進を図っている。
今後もパンフレットも作っているのでPRしたい。

9月オープン後、多くの利用者でにぎわうグリーン・パル



甲佐小学校の授業の一コマ

甲佐小学校内に親水公園を建設!!

地域水環境整備事業で対応

Q2

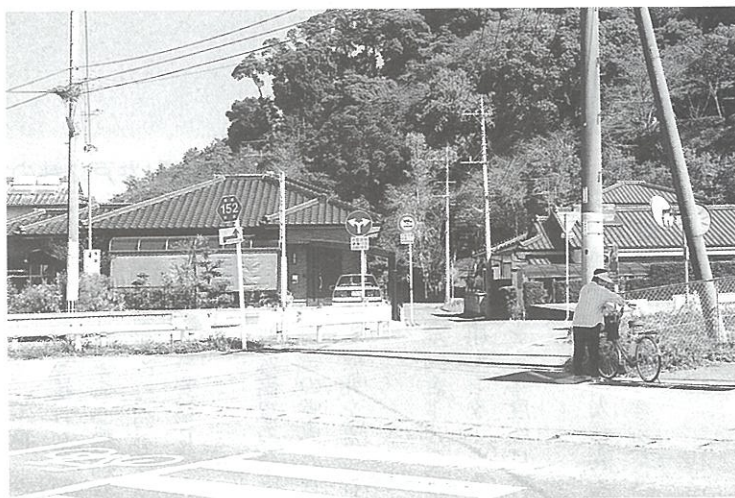
甲佐小学校の校門右側の石塀が傾斜して危険な状況にあり、改修を要望していた経緯がある。先般、県営の地域水環境整備事業の協議会において当該事業の中で取り組ん

だらどうかといった話もあった。その後の状況はどうなったか？

A2

地域水環境整備事業では今年度、甲佐小学校敷地の学びの森に、親水の学習公園を建設する予定である。お尋ねの石塀については県とも協議し、その事業の中で対応できるように進めている。

道路の危険箇所の整備を急げ!



国道443号線 (JA 甲佐給油所付近) の横断歩道

学童保育は14年度で対応予定

Q3

学童保育についてはどのように進められているのか、現在の状況を知りたい。

A3

この問題は現在、健康福祉課で検討しているが、補助事業として取り組むには利用者が10名以上ないと対象とならない。

先般、乙女小学校の低学年該当者にアンケート調査を行ったが、それによると利用者は3名といった結果がでている。また甲佐小学校ではPTAが独自の調査をされており、9割が要望という結果も出ているので再度、町独自で調査をし、14年度で立ち上げ、まずは甲佐校区で実施したいと考えている。

Q4

県道稲生野甲佐線の、清正公山下の三叉路の部分においては、県道と町道とが交差し、また一時停止線もなく、非常に危険である。道路標識も含めて見直しを願いたい。また、①国道443号線のJA上益城の石油スタンドからサエラ前までの、歩道設置②甲佐高校入口での信号付近の外側線

A4

3点の質問箇所については、指摘の後に、直ちに県の振興局土木部・維持課へ連絡し現地を見て頂き、対応をお願いしてある。

やな場改修の予算を計上

Q5

やな場改修の予算の詳細について聞きたい。

A5

やな場には、現在500㎡の駐車場があるが1300㎡程隣地に拡張したく、トイレの改築工事と駐車場の整備費を予算計上した。

町の職員採用を聞く

Q6

今年、町の職員採用では、町外の者の1人だった。町内からの応募者は1次試験を通過できなかったということか？

A6

地方自治体の職員採用は町外の者でも応募できる。13年度では、町外の者1人だけ、県が指示している1次試験の基準を満たしていた結果である。



昨年と今年、長期間、通行止めとなった災害現場(井戸江峡の対岸)

県道三本松―甲佐線の 全線改良を急げ

佐藤良一議員

佐藤議員

三本松―甲佐線は、宮内校区において大事な生活、通学道路であり、何回か崩落災害も起って、住民にとって本道路の改良工事が大変深刻な問題となっている。

また、甲佐神社、甲佐岳、井戸江峡、川平キャンプ場等、すばらしい環境も肝心の道路が今の状況ならば、非常に不便である。

この路線の早急な改良が必要である。

建設課長

平成13年度において、上揚地区、上豊内バイパス、宮内小学校付近等、六カ所の改良工事を県の方に要望している。地権者との交渉も難行している箇所もある。また、離合もできない場所については、局部的な改良も要望している。

佐藤議員

岩下―益城橋線の今後の計画と植樹帯の整備と管理についても研究を要する。

建設課長

仁田子地内を130mとして旧健康センターから66mの改良を本年度中に計画している。

植樹帯の土の入れ変えや樹木についても考えてみたい。

このページは、一般質問の紹介です。

税の徴収状況を聞く

佐藤議員

景気の低迷や、リストラ、マイナス成長の現在において、税の徴収率は右肩下りの傾向にあると思われるが、税の徴収の動向はどうなっているか。

税務課長

町民税、軽自動車税、国民健康保険税等、いずれもマイナスという状況になっている。

環境衛生課長

水道使用料については、96%の徴収率になっているが、最近落ちてきている。滞納

が増えると、水道会計も悪化するので徴収には、力を入れていく。

町長

景気の低迷でなかなか徴収が困難になっている。抜本的な対策が必要であるが、粘強く徴収する事が第一である。徴収員の制度などの対策を考えてみたい。

佐藤議員
徴収については、各課とも頑張ってもらいたい。詳しくは、決算委員会で決算報告を受けたい。

宮内校区の 水道問題を聞く

佐藤議員

宮内校区において、上水道の整備と三本松―甲佐線の改良工事は、大変重要な問題である。宮内校区の上水道の計画は、今後どうなっていくのか。

環境衛生課長

昨年度、宮内区長会等から要望があった。校区の要望と地域住民の考えについてアンケートを実施した。その回答と宮内校区の将来を考慮に入れ、水道計画を検討していき、今後更に現地調査を充分に行いたい。

教師は子供の喜怒哀楽を察知

すべし

本田昭一議員

教科書で教えるより 子供との接点を

本田議員

国家百年の計は人を教えるにあるといわれている中、日本の明日を背負う子供を守るには国レベルで論ずるものである。然しながら当然、地方自治体としても真剣に考えねばならない。そんな中、町には民生児童員という方がおられるが、どのような権限で仕事をなされているかお尋ねする。

健康福祉課長

当町には児童福祉民生員が30名、主任児童員が2名おられる。主な仕事として地域及び学校の福祉に密着し、相談事業をされている。例えば家庭的事情で親がおられない場合、主任児童員が学校と児童福祉施設との連絡をとり調整しながら処理をされている。

本田議員

学園生活の中で先生方はただ教科書で教えることより、子供と接して子供の子供の喜怒哀楽を十分察知することが重要と思うが。

教育長

学校は子供にとって、今日が楽しく明日が待ちどおしい、これが一番理想的である。保護者にとって、我が子の可能性を学校で十分に伸ばして頂く事への期待があり、それに応えるのが学校の職員の努めである。今

立派な先生を呼んでほしい

本田議員

学校は聖域という事を聞くが、昨今の学校環境をみると、司法によって解決されている状況がある。子供の幸せを願うなら、今後民生関係の行政サイドとの連携を深めるべきではないのか。

町長

時代が変わり、今からは地域も学校も家庭も、そして教育行政と保険福祉行政

後、強く学校の方に指導助言をしていかねばならないと痛感している。

本田議員

痛感しているということでは、教職員の数が不足ということか。

教育長

子供たち一人ひとりを大事にする為には、やはり職員の数が多ければもっと手が届くということは考えられる。そのような状況になるように県あたりに対応したい。

本田議員

等も一緒になって今の子供を育てなければならぬ。法律の問題もあると思うが、町独自の指導の方策をとる努力が必要ではないか。また教職員の資質の中で、不適格な方がおられるのではないか。今後、先生方が愛情をもって教育するよう

教育長自らが指導するべきではないか。

教育長

来年度より週5日制の制度が始まり、今まで以上に学校と地域、また家庭とが連携をとらなければいけない。開かれた学校づくりという事で、地域に人材バンクをつくり、地域の方の協力を得たいと考えている。

教育長の資質については、

子供等から信頼を受けるような教員、そして子供を大切にする人間性、いわゆる

子供等から信頼を受けるような教員、そして子供を大切に

農業労働力の確保を問う

本田議員

今年、農協が広域的に合

併したが、農業を取り囲む情勢は、厳しいものがある中、現実的に事業としてどのような計画がなされているか。

農政課長

6カ町村が、連携山村事業として取り組んでいくという事で、県の農業振興課が各町村の事業要望をとりまとめている。当町では

徳育面、情操面あたりを培うような事柄を教師に求めていく。

本田議員

過去の実績を活かして、当町にできる限り立派な先生を呼んでほしいが、いかがなものか。

教育長

教育委員会には人事権はないが、内申権があるので素晴らしい教員を当町に編入されるよう精一杯努力する。

ニラの選果場を要望している。

本田議員

今後農業経営で作物を量産して薄利多売を考える時、労働力の必要性があるが、どのような対策があるか。

農政課長

町は雇用労働力の確保という事で平成14年にシルバー人材センターを立ちあげる計画がある。

この他に、各・部落からの事業要望書に関することや、町・職員の資質に関するこの質問がありました。

「新しい歴史教科書」

採用には見識を持って

佐藤義郎議員

佐藤議員

先に中学校の社会科の教科書として、文部科学省の検定に合格したと言われる「新しい歴史教科書」の中で、特に問題な点がある。戦前、政府は世界を統一して、神国日本のもとに支配するという考え方があったが、本では、大東亜戦争は、東亜の諸国を神国日本のもとに支配しようとする考え方で、これで名前は大東亜戦争だったと言う書き方をしている。さらに、この戦争で、アジア諸国はそれぞれの国が独立を早めたと表現している。明らかに、日本が行った侵略戦争を美化している。間違った歴史観であり、これが子供たちに教育されることは大きな問題と思う。文部科学省は廃棄すべきではないか。

教育長

中学校社会科の歴史分野と公民分野で、一つの教科書が発行の教科書が問題になっているが、各団体・グループより採択せよ、採択するなどの要望もあったが、学校の指導要領の内容を逸脱しないような、公平・公正な指導ができるよう、十分配慮・指導する。

佐藤議員

科学的立場に立って、子どもたちに正しく教えることが大事で、文部科学省の

決定が良いと判断するのではなく、町の教育委員会にも選択の自由があり、結果的に採用されなかったから良かったものの、反省と常に正しい見識を持つべきではないか。

教育長

「新しい歴史教科書」の採用については、採択委員会の協議を経て、上益城の地域の実態、指導要領の趣旨を十分踏まえた上で東京書籍の本を採用した。

佐藤議員

介護保険が実施されて一年余たった。この介護保険は五段階に分かれていて、第一段階は養老福祉年金受給者、生活保護者の住民税

介護保険料

軽減措置が必要だ

非課税の世帯で、この人達は標準の0・5%ということになっていて、保護を受けている人から金を取るということは、いかがなものか。政府、国が社会保障に金を出すように改善を求める要求をして来たが、今後介護に対する町独自の軽減措置が是非とも必要ではないか。

町長

現時点ではこの制度を動かせない。しかし、対応としては一番に生活保護法を適用させること、二番目には境界層の該当者を下げて行く方法を取り、困った方に対しての相談員を10月より配置したい。

学校の管理体勢を問う

女性の学校主事で大事なにか

佐藤議員

先日、池田小学校で何人も小学生が殺害された。教育委員会では子どもたちをどのようにして学校の中で守るのか、具体的措置がとられているか。

教育長

学校職員の危機管理の高揚を図るため、各学校の実情に応じた対策はどうなっているのか調査した。安全管理については、門扉があるのは甲佐小学校だけで、他の学校では出入りが自由

佐藤議員

な状況である。出口、入口に看板を設置し、非常事態発生の場合の連絡強化として、幼稚園、小学校、中学校のそれぞれの教室、保健室に防犯ブザーを設置、中学校1年生の女子には防犯ブザーを所持させた。

町長

今年、4月から学校主事を女性にしたが、このような犯罪社会の中であるから男性を配置してはどうか。

今、女性を臨探として学校主事に起用しているが、体格の良い男性とかの研究をしたい。

このページは、一般質問の紹介です。

財政上の支障なく

道路網の整備は可能か

北畑常博議員

北畑議員

国は平成17年頃までに、

町村合併を指示しているようだが、町としては白旗小学校の体育館、庁舎等の建設の予定があると思う。町財政がきびしい中で、今後の町の道路網の整備について支障はないか。例えば熊本まで四車線道路を作ること提案したが、音沙汰なし。高校裏の県道だが、大型車も通らん。役場の道路も、代行工事でないの、今から金がかる。財政上支障なく、道路網の整備は出来るか、伺いたい。

町長

財政的にきびしくなることが予想され、今後工夫を凝らし、自主財源の確保に努め、歳出面で一層の経費

節減に努力する。道路網の整備については、基本計画、振興計画に基づいて、万全の対策を講じて行きたいと思う。

出るばかり、入はどうする

北畑議員

営林署跡地は買う、保健福祉センターは建てる。六〇七億がかかっていると思う。借金もここ四〇五年で返して行かねばならぬ。金を出て行くばかりで入る金はない。

交付税も減つて来る。財源を確保するための手を打つ必要がある。そのためには企業誘致するか、住宅

政策で人口を増すことで、収入を増すことしかないと思う。町長は、どんな施策を持っているか伺いたい。

町長

御指摘のように歳入が増

えるような事業をやるべきと思う。そのための住宅政策を考えてきたが、思うようには出来ていない。人口を増すには、甲佐に住みたいと思われような条件整備が必要で、環境の整備、交通の便や教育文化面の整備など一層努力して行きたい。住宅政策にも一層努力を入れて行きたい。

もう一つの側面として、町財政に大きな比重を占める交付税問題がある。今後削減されるといふ情勢だから、経費削減に一層努力して、町財政の健全化をはかって行きたい。

緑川環境を問う

北畑議員

母なる川、緑川の恵みで生きて来た。ところが家庭排水で汚染され、大井手川の鯉は大きくなるが子は産まん。水道の水もカルキを入れないと飲めない。

砂防ダムを作つて、飲料水を確保するよう、町長と土木事務所交渉したら、土木事務所も乗り気だったがそのままだ。やる気はあるのか。

一番問題なのは、砥用のダムに溜っている土砂を国土交通省に処理させること。

それから四万十川のように測定器をつけたり、鮎の養殖場を作る、特に自然保護・山林の崩壊をふせぎ、山林を育てる等が重要と思うがどうか。

町長

合併浄化槽を普及し、四万十川方式も研究している。砂防ダムの件は、地元で了解を得られなかったが、再度話し合ってみよう。四万十川方式も研究したいし、河川管理についても充分考えて行きたい。

一貫教育を聞く

北畑議員

私はこの席から、一貫教育ということを何回も言い続けてきたが、県教委にはほとんど伝わっておらなかった。前の教育長は甲佐高校の先生が、保育園の先生と連絡をとり合つて指導

していることを大変ほめていたが、その計画が全然出ていない。事務引継があつたどうかを今聞いてもどうにもならんが、教育長になられたのだから、今度は目覚ましいものがあつたと思

町長

甲佐高校に福祉学科があります。私たちは福祉の町づくりを進めております。それとつなげて行けるような体制を考えて行きたいと思う。

このページは、一般質問の紹介です。



18番目の誘致企業

森川健康堂(株)が移転 落成

田口橋のたもと、森川健康堂(株)の本社・工場が操業を始めました。

同社は、平成8年に本町の18番目の誘致企業として進出が決定し、その後、本社・社屋と第3工場がこれまで建築中でしたが、今年9月に竣工しました。

落成式は、9月22日に熊本のニュー・スカイホテルにおいて挙行され、町内の関係者も多数出席し、会場を盛り上げました。

今後とも本町の誘致企業として業績が高まり、社業が発展しますよう、町や議会をあげて祈念申し上げます。

代表取締役・社長 森川俊雄氏。本町に進出前は、富合町に熊本本社を構えていた。

企業拡大路線から移転を決定し、本社・社屋と第3工場を、今年、本町に移転したものです。

この時、資本金を1億円に増資。社員数は、現在65人。

業務内容は、森川商標の健康食品や化粧品、製造販売を行うもの。

主力商品は、ローヤルゼリー、酵素、プロポリス、霊芝、はちみつ、など。

思っています。

時々耳にすることは、一般質問や質疑の問答について、その全文を掲載してほしいとの指摘です。

これは、この広報紙が多くの住民の声や、平均した意見を集約する必要から、短い文章にまとめ、要旨をお伝えしているからです。

紙面の都合も多々あります。こうした点をご理解いただきたいと思います。

5人の広報委員は、いろいろと研修や研鑽を重ね、種々検討していますが、今後も親しみやすい紙面作りに努力しますので、町民の皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

(H・S)



田口 和代

傍聴席から一言

甲佐町に住み始めて十年あまりが過ぎました。住むといっても朝、出勤し、夜帰るといって日々でした。

だから甲佐のことは余り良く分からないことが多い。

甲佐に住んで思うこと

感じたこと、麻生原のキンモクセイ、津志田の河原、井戸江峡のキャンプ場、甲佐神社、ヤナ場などと、「花と緑と鮎の町」のキャッチフレーズにふさわしい自然や史跡が沢山あります。しかし、残念なのはこれらがうまく生か

されていないように感じます。

住民だけの力ばかりでなく、町がもっと力を入れていただければ、甲佐の町にもっと元気が感じられるのではと思っています。

もしかしら、私だけが知らなかったことで、町としてはとっくの昔から力を入れていらっしゃるかもしれない。

編集後記

毎年4回、定例議会の終了毎に本紙を発行しています。議会だよりの発行の目的を改めて申し上げることはありませんが、議会の審議の項目や内容、更には、町民の代表である議員の活動を、分かりやすく、皆さんにお伝えすることだと思っています。